

資料・統計

2003年婦人科入院悪性腫瘍統計

Annual Report of Gynecologic Malignancies in 2003

児 玉 省 二 本 間 滋 笹 川 基 西 野 幸 治
 生 野 寿 史 上 村 直 美 海 部 恵 美 子 富 田 雅 俊
 萬 歳 千 秋 高 橋 威

Shoji KODAMA, Shigeru HONMA, Motoi SASAGAWA, Koji NISHINO,
 Kazufumi HAINO, Naomi KAMIMURA, Emiko KAIBE, Masatoshi TOMITA,
 Chiaki BANZAI and Takeshi TAKAHASHI

要 旨

2003年に当科で入院治療を行った悪性腫瘍患者について、疾患別ならびに臨床進行期分類別の症例数と年齢および治療内容について集計報告する。入院以外の外来治療例は本統計には含まれていない。

1. 入院全悪性腫瘍患者

2003年に入院治療した悪性腫瘍の新鮮例は、子宮頸部腫瘍145例、子宮体部腫瘍33例、悪性卵巣腫瘍29例、卵管癌1例の合計208例であった。

最近6年間の子宮頸部腫瘍、子宮体部腫瘍、卵巣腫瘍の年次別推移では(表1)、1998年は子宮頸部腫瘍65例(異形成8例、上皮内癌18例、浸潤癌39例)、子宮体部腫瘍25例(上皮内癌0例、浸潤癌22例、肉腫3例)、悪性卵巣腫瘍31例(境界悪性5例、悪性26例)であった。そして、2003年には子宮頸部腫瘍145例(異形成32例、上皮内癌58例、浸潤癌55例)、子宮体部腫瘍33例(上皮内癌4例、浸潤癌28例、肉腫1例)、悪性卵巣腫瘍29例(境界悪性6例、悪性23例)となり、子宮頸癌では異形成、上皮内癌および浸潤癌がともに増加したのが特徴的であった。

2. 子宮頸部腫瘍

表2は臨床進行期別症例数と年齢(平均年齢、年齢分布)の関連を示しているが、0期(上皮内癌)は58例で、平均年齢40.8歳、年齢分布20-78歳であった。Ia期(全例がIai)の初期浸潤癌は17例で、平均年齢40.1歳、年齢分布27-67歳であった。この両進行期は全体の66.3%を占めているが、若年者であれば子宮温存が可能な段階である。そして、進行期が進むに従って高齢となり、全体では平均年齢45.8歳、年齢分布20-84歳であった。

治療内容では(表3)、手術例は99例で全体の87.6%を占め、その内容はLEEP(Loop Electrosurgical Excision Procedure)6例、円錐切除単独40例、単純全摘24例、準広汎全摘7例、広汎全摘22例であった。子宮温存治療は、病変が狭く妊娠希望を行う上

表1 入院悪性治療症例(子宮頸部、子宮体部、卵巣)の過去5年間の年次別推移

臓器	病変	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
子宮頸部	異形成	8	4	5	5	8	32
	上皮内癌	18	18	16	36	36	58
	浸潤癌	39	20	25	22	49	55
子宮体部	上皮内癌	0	0	1	3	0	4
	癌	22	17	18	34	20	28
	肉腫	3	1	2	1	0	1
卵巣	境界悪性	5	3	2	3	7	6
	悪性	26	25	18	20	25	23
合計		121	88	87	124	145	207

新潟県立がんセンター新潟病院 産婦人科

Key Words: 婦人科悪性腫瘍

表 2 子宮頸癌の臨床進行期別数と年齢

進行期	症例数	平均年齢	年齢分布
0	58	40.8	20-78
I a	17	40.1	27-67
b	21	52.4	29-81
II a	3	61.3	48-71
b	8	56.8	40-83
III a	1	61	61
b	5	66.6	52-84
IV a	0	-	-
b	0	-	-
合計	113	45.8	20-84歳

表 3 子宮頸癌の治療内容

治療内容	症例数
手術療法	
LEEP	6
円錐切除	40
単純	24
準広汎	7
広汎	22
照射療法	
単独	10
化療併用	4
合計	113

表 4 子宮体癌の臨床進行期別数と年齢

進行期	症例数	平均年齢	年齢分布
0	4	50.3	41-61
I a	1	48	48
b	11	50.8	39-74
c	4	66.3	59-72
II a	0	-	-
b	2	55.5	41-70
III a	4	70.3	60-81
b	0	-	-
c	4	54	49-59
IV	3	68.7	62-73
合計	33	57.2	39-81歳

皮内癌が対象となるLEEPと病変が広い上皮内癌あるいは微小浸潤癌 (Ia 1 期) に対象となる円錐切除術が最も多く手術例の約半数 (46.5%) を占めていた。放射線療法は14例で、単独10例、化学療法併用4例であった。

3. 子宮体癌

表 4 は臨床進行期別症例数と年齢 (平均年齢, 年齢分布) の関連を示しているが, 上皮内癌 (異型内膜増殖症) 4 例, Ia期は48歳の1例, 最も多いIb期は11例で平均年齢50.8歳, 年齢分布39-74歳, Ic期4例は平均年齢66.3歳, 年齢分布59-72歳であった。II期はb期2例で, 41歳と70歳であった。III期は8例で, IIIa期4例は平均年齢70.3歳, 年齢分布60-81歳, IIIc期4例は平均年齢54.0歳, 年齢分布49-59歳であった。IV期の3例は平均年齢68.7歳, 年齢分布62-73歳で, 全

表 5 子宮体癌の治療内容

治療内容	症例数
手術単独	16
化療併用	17
合計	33

表 6 悪性卵巣腫瘍の臨床進行期別数と年齢

悪性度	進行期	症例数	平均年齢	年齢分布
境界悪性	I a	4	46.3	30-71
	b	0	-	-
	c	2	63.5	48-79
悪性	I a	1	78	78
		0	-	-
		5	57.2	48-62
	II a	0	-	-
		2	69.5	67-72
		3	53.3	48-58
	III a	0	-	-
		0	-	-
		9	67.4	50-86
IV	3	68.7	57-81	
	合計	29	61.7	30-86歳

表 7 悪性卵巣腫瘍の治療内容

治療内容	症例数
手術単独	7
化療併用	22
合計	29

体の33例では平均年齢57.2歳, 年齢分布39-81歳であった。

治療内容では (表 5), 全ての症例に手術がなされており, そのうち手術単独はIb期までの16例で, Ic期以上のhigh risk groupの17例には化学療法が併用された。

4. 卵巣癌

表 6 は臨床進行期別症例数と年齢 (平均年齢, 年齢分布) の関連を示している。境界悪性腫瘍は, Ia期4例の平均年齢46.3歳, 年齢分布30-71歳, Ic期2例の平均年齢63.5歳, 年齢分布48歳と79歳であった。悪性の浸潤癌は, Ia期が78歳の1例, Ic期5例の平均年齢57.2歳, 年齢分布48-62歳であった。II期では, IIb期の2例は67歳と72歳で平均年齢69.5歳, IIc期の3例の平均年齢53.3歳, 年齢分布48-58歳であった。III期では, IIIc期の9例で平均年齢67.4歳, 年齢分布50-86歳であった。IV期は3例で, 平均年齢68.7歳, 年齢分布57-81歳であった。全体では, 平均年齢61.7歳, 年齢分布30-86歳であった。

治療内容では (表 7), 手術単独で終わったのは境界悪性全例と浸潤癌Ia期1例の合計7例であった。化学療法が併用されたのは22例であった。